

第二〇六回ペン川柳会

令和三年七月二十六日

お題 「化・化ける」

■ 松谷 (零門)
れいもん

大化けのルーキー達で首位を行く
コロナ禍でお化け屋敷も無観客

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

お化けなら四谷か番町永田町
株の神大化け株を知ろしめせ

■ 塚田 (拿々)
だだ

何事も老化のせいと医者曰く
飲み過ぎて次々剥げる化けの皮

■ 西川 (酔雅)
すいが

化けるのが下手で出世の道外れ
お化け出た目を凝らしたら古女房

■ 平尾 (酔深)
すいしん

情けない化けた女に二度惚れる
化けの皮剥がれる前に尻尾巻く

■ 八木 (明迷)
めいめい

まだ辞めぬベテラン化石と言われても
フハメヒハこの頃お化けもマスクする

■ 浜田 (我々好)
ウイスキー

化粧はげ透けて見えるはシワとシミ
厚化粧若いふりする大年増

■ 細谷 (損得)

そんどく

文字化けを頼りにしている川柳子
お化粧を男もすなる同性婚

■ 稲宮 (井波)

いなみ

平和裡に綱を奪ってモンゴル化
A-1化3K残しみなエレキ

■ 大野 (だし)

世界中見事に化かす新コロナ
化け物が乱舞の舞台オリンピック

■ 三春 (火酒)

ウオツカ

葬儀屋はお化け相手に愚痴り酒
化けの皮はがしや緑のタヌキ出る

■ 安藤 (晃二)

てるつぐ

脱炭素化学(おばけ)の教師夢枕に
聖火台化けの皮剥き五輪燃ゆ

世話人 塚田 實(拿々)

だだ